

資料 2 第 134 回火山噴火予知連絡会について

平成 28 年 2 月 17 日、第 134 回火山噴火予知連絡会が開催された。同連絡会では、全国の火山活動の評価のほか、口永良部島、阿蘇山等の火山活動について特に重点的に検討を行い、委員及び関係機関からの報告をもとにとりまとめた。その結果を気象庁が以下のとおり発表した。

第 134 回火山噴火予知連絡会 口永良部島の火山活動に関する検討結果

口永良部島では、引き続き噴火の可能性があり、噴火に伴う大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。

口永良部島では 2015 年 6 月 19 日のごく小規模な噴火以降、噴火は発生していません。

1 日あたりの二酸化硫黄放出量は、2015 年 9 月以降、100 から 300 トンとやや少ない状態が続いていますが、9 月と 12 月に、一時的に 1 日あたり 500 トンを超えてやや多くなりました。

2015 年 5 月 29 日の噴火以降火映は観測されておらず、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度も低下した状態が続いています。火山性地震も少ない状態が続いています。

地殻変動観測で 2015 年 3 月頃までにみられていた島の隆起を示す変動はその後停滞しており、マグマの上昇を示すような顕著な変化は認められません。

以上のように火山活動が高まる傾向はみられないことから、2015 年 5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性は低い状態が続いているものと考えられます。しかしながら、5 月 29 日の噴火前からの島の隆起した状態が維持されていることから、引き続き噴火の可能性があり、火砕流にも警戒が必要と考えられます。

噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね 2 km の範囲、及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね 2.5 km の範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

第 134 回火山噴火予知連絡会 全国の火山活動の評価

本日、第 133 回火山噴火予知連絡会（平成 27 年 10 月 21 日）以降の全国の火山活動について検

討を行い、結果を以下のとおり取りまとめました。

○全国の主な火山活動

今期間（平成 27 年 10 月 21 日～平成 28 年 2 月 17 日）、桜島、阿蘇山、諏訪之瀬島及び西之島で噴火が発生しました。

口永良部島〔噴火警報（噴火警戒レベル 5）〕については別に「口永良部島の火山活動に関する検討結果」として取りまとめました。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3）〕

昭和火口で 2016 年 2 月 5 日に爆発的噴火が発生し、大きな噴石が 3 合目まで飛散しました。その後も時々噴火が発生していることから、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられます。地殻変動観測では、始良カルデラの膨張が続いていることから、火山活動のさらなる活発化の可能性もあり、引き続き火山活動の推移を注意深く監視していく必要があります。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）〕

西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていません。表面的な活動に低下が認められるものの、これまで 2 年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5 km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

大穴火口の噴気活動や熱活動はやや活発な状態が続いています。大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性がありますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が続いています。また、北側噴気地帯の噴気活動が活発化し、ガス組成及び湯釜湖水の化学成分の活動活発化を示す変化が続いています。

草津白根山では火山活動が活発化した状態が続いており、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

火山性地震のやや多い状態が続いています。二酸化硫黄放出量が多い状態が続いていましたが、2015 年 12 月以降は 1 日あたり 1,000 トン以下となっています。

火口から概ね 2 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は危険な地域には立ち入らないよう地元自治体等の指示に従ってください。

また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

2014 年 10 月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いています。火口列からの噴煙活動や地震活動が続いていることから、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

阿蘇山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2）〕

2015 年 10 月 23 日及び 12 月 25 日に小規模な噴火が発生しました。二酸化硫黄放出量が多い状態が続いています。

中岳第一火口では、時々小規模な噴火が発生していることから、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

2015 年 7 月頃から継続時間約 2 から 5 分の火山性微動が時々発生し、それに伴い硫黄山の北西方向が一時的に上がり、しばらくして戻るような傾斜変動が観測されています。また、硫黄山付近が隆起する変動も観測されています。2015 年 12 月 14 日以降、噴気や熱異常域を確認しており、熱異常域には拡大傾向が認められます。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動がやや高まってきていますので、今後の火山活動に注意してください。

各地方の主な活火山の火山活動評価

1. 北海道地方

①アトサヌプリ 〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②雌阿寒岳 〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕 ←平成27年11月13日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ

- ・2015年7月26日からポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする体には感じない微小な火山性地震が増加しましたが、2015年8月下旬以降少ない状態で経過しています。
- ・2015年11月2日から5日にかけて実施した現地調査では、ポンマチネシリ第3・第4火口における地熱域のさらなる拡大等は観測されず、過去の活動と比較して熱活動の高まりは小規模なものに留まっていました。
- ・これらのことから、ごく小規模な噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられることから、気象庁は2015年11月13日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）を発表しました。
- ・直ちに噴火に至る兆候は認められませんが、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙量は、2015年6月頃以降やや多い状態が続いています。また、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化は継続しています。今後の火山活動の推移に注意してください。

③大雪山 〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④十勝岳 〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

- ・火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生、発光現象及び地熱域の拡大などを確認しており、長期的にみると火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤樽前山 〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

- ・火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・山頂溶岩ドーム周辺では、1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意してください。

⑥倶多楽 〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

- ・2016年2月4日に日和山の西側約2km付近でマグニチュード2.5の地震が発生しました。その後一時的に地震が増加し、わずかな傾斜変動を伴う地震もありました。
- ・GNSSによる連続観測や噴気活動等、その他のデータには特段の変化はみられず、直ちに噴火に至る兆候は認められません。

⑦有珠山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧北海道駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨恵山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

2. 東北地方

①岩木山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②八甲田山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③秋田焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

④岩手山 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑤秋田駒ヶ岳 [噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）]

- ・女岳では、2009年以降拡大した地熱域が引き続き認められます。
- ・地震活動は、一時的に増加することもありましたが概ね低調で、地殻変動にも特段の変化はみられません。地熱活動が続いていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥鳥海山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過して

おり、噴火の兆候は認められません。

⑦栗駒山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧蔵王山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・御釜付近が震源とみられる火山性地震は、少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動は、2015年11月以降、月に1～3回発生しています。継続時間の長いものもみられましたが、最大振幅は、これまでに発生した微動と同程度のものでした。
- ・火山性微動発生時には傾斜計の変動がみられることもありますが、GNSSによる地殻変動と噴気活動に特段の変化はみられません。
- ・GNSS連続観測では、一部の基線で2014年10月以降、山体のわずかな膨張を示す変化がみられていましたが、2015年6月頃から停滞しています。
- ・2015年11月に行った現地調査では、振子沢の地熱や温泉湧出の状況に特段の変化はみられませんでした。また、12月に実施した上空からの観測では、御釜とその周辺に異常は認められませんでした。
- ・2013年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にありますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑨吾妻山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

- ・大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過しました。
- ・GNSS連続観測の短い基線では、2014年9月頃から一切経山付近の膨張を示す緩やかな変化がみられていましたが、2015年7月頃から停滞しています。長い基線の一部では、2014年12月頃から山体の膨張を示す地殻変動が観測されていましたが、2015年7月頃から停滞し、10月頃から収縮に転じています。
- ・浄土平観測点（大穴火口の東南東約1km）の傾斜計は、2014年7月頃から西南西側（火口方向側）上がりの変動で推移した後、2015年7月頃から停滞していましたが、2015年9月頃から西側下がりの傾向となっています。
- ・遠望カメラによる観測では、大穴火口（一切経山南側山腹）の噴気の高さが2015年9月に200mまで一時的に上がりましたが、その後は100m以下で経過しました。
- ・2015年11月に実施した現地調査では、2015年10月に引き続き、一切経山西側の登山道沿いで弱い噴気を観測しましたが、その広がりなどに大きな変化はありませんでした。

- ・2015年10月に実施した大穴火口周辺の全磁力繰り返し観測では、大穴火口周辺の地下で熱活動が活発化している可能性を示す変化が引き続き観測されました。
- ・大穴火口付近の浅部での熱活動が高まった状態が継続しています。さらなる高まりを示す現象は認められないものの、しばらくの間は小規模な噴火が発生する可能性があると考えられますので、大穴火口周辺では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石、火山ガスに注意してください。

⑩安達太良山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪磐梯山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

①那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

③草津白根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側にかけての斜面で熱活動の活発な状態が継続しています。また、2015年9月以降、北側噴気地帯で噴気活動が活発になっています。
- ・2014年5月以降、北側噴気地帯の硫化水素ガス成分の減少した状態が継続しています。
- ・2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加していましたが、2014年8月下旬以降概ねやや少ない状態で経過しています。
- ・GNSSによる地殻変動観測では、2014年4月頃から湯釜を挟む基線でわずかな伸びの傾向がみられていましたが、短い基線では2015年4月頃より鈍化、長い基線では8月頃より停滞してい

ます。

- ・湯釜周辺の傾斜計の湯釜付近の膨張を示す変動は、2015年11月頃から停滞傾向が認められます。
- ・2014年5月頃から湯釜近傍地下の岩石の熱消磁によると考えられる全磁力変化がみられていましたが、2014年7月以降は停滞しています。
- ・草津白根山の火山活動は活発化を示す変化が観測され、その状態が継続しており、小規模な噴火が発生する可能性があることから、湯釜火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

④浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

- ・2015年6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。
- ・高感度カメラで確認できる程度の弱い火映を、引き続き夜間に時々観測していましたが、2016年1月4日以降は観測されていません。
- ・二酸化硫黄放出量は、2015年6月から多い状態が続いていましたが、12月以降は1日あたり1,000トン以下となっています。
- ・火山性地震は2015年4月下旬頃から増加し、6月以降多い状態で経過していましたが、12月頃から次第に減少し、やや多い状態で経過しています。発生している地震はその多くがBL型地震です。
- ・火山性微動は2014年頃から増加する傾向がみられていましたが、2015年9月以降は少ない状態で経過しています。
- ・光波測距観測による地殻変動観測で2015年6月頃からみられていた山頂と追分の間の縮みの傾向や、山体周辺のGNSSによる地殻変動観測で2015年5月頃からみられていた伸びは、いずれも10月頃から停滞しています。
- ・火口から概ね2kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。登山者等は危険な地域には立ち入らないよう地元自治体等の指示に従ってください。
- ・風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑤新潟焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- ・2015年に入って地震回数がやや増加しています。
- ・山頂部の噴煙活動が高まっています。今後の火山活動の推移に注意してください。

⑥弥陀ヶ原 [噴火予報（活火山であることに留意）]

- ・弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過しています。
- ・立山地獄谷では以前から熱活動が活発でしたが、2012年6月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されており、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

⑦焼岳 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑧乗鞍岳 【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑨御嶽山 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

- ・今期間、噴火は発生しませんでした。剣ヶ峰山頂の南西側の火口列からの噴煙は、2015年10月には、一時的に高さ火口縁上1,000mまで上がることがありましたが、11月以降は高さ火口縁上概ね400m以下で経過しています。
- ・火口列からの噴煙活動や地震活動は続いており、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。ただし、いずれも緩やかな低下傾向が継続しています。
- ・火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

⑩白山 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑪富士山 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・2011年3月15日に山頂の南南西約5km、深さ15kmを震源とする静岡県東部の地震（マグニチュード6.4、最大震度6強）が発生しました。それ以降、その震源から山頂直下付近にかけて地震活動が活発な状況となりました。その後、地震活動は低下しつつも継続しています。
- ・その他の観測データに異常を示すものはなく、噴火の兆候は認められません。

⑫箱根山 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】 ←平成27年11月20日に噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ。

- ・2015年7月1日にごく小規模な噴火が発生した後、噴火は観測されていません。
- ・地震活動は低下傾向が続き、ほぼ2015年4月の活発化以前の状態となったことから、気象庁は11月20日に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。
- ・噴火の可能性は低くなっていると考えられます。
- ・一方、大涌谷周辺の想定火口域では、引き続き噴気活動が活発なところがありますので、噴気や火山ガスに引き続き注意してください。

⑬伊豆東部火山群 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑭伊豆大島 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・地殻変動観測によると、短期的な膨張や収縮があるものの、長期的には、地下深部へのマグマ供給によると考えられる島全体の膨張傾向が継続しています。
- ・その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められません。長期的には山体の膨張が継続していることから、今後の火山活動に注意してください。

⑮新島 【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯神津島 【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰三宅島 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・噴火は2013年1月22日を最後に発生していません。
- ・噴煙は白色で、高さは火口縁上概ね500m以下で経過しています。
- ・山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過しています。
- ・2015年10月29日頃から、振幅が20分間程度の間隔で間欠的に増大する連続微動が発生しましたが、4日に再び発生し、12月24日頃まで継続しました。
- ・二酸化硫黄の放出量は長期的には緩やかな減少傾向にあり、今期間実施した現地調査では、1日あたり100～300トンと、やや少ない状態で

した。

- ・GNSSによる観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞しています。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続しています。
- ・主火孔における噴煙活動及び火山ガスの放出が継続していることから、規模の小さな噴出現象が突発的に発生する可能性があります。

⑮八丈島【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑯青ヶ島【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

⑰西之島【火口周辺警報（入山危険）】

- ・2013年11月20日に西之島の南東海上で確認された噴火では、噴石等を放出する爆発的噴火や溶岩の流出により新島が拡大し、2013年12月26日には西之島旧島と一体となりました。
- ・2015年11月17日にはブルカノ式噴火を確認し、火口の南西側1 km程度まで噴石等を飛散させたほか、観測中の航空機で爆発音や空振を確認しています。
- ・しかし、その後は噴火は観測されていません。11月下旬以降は、溶岩の流出もほぼ停止しているものとみられ、島の面積の拡大も停止しています。12月以降は地表面温度の低下が確認されています。
- ・島の海岸付近では変色水域が確認されています。
- ・西之島では、表面的な活動に低下が認められるものの、2013年11月以降活発な噴火活動が2年以上継続してきたことから、引き続きブルカノ式噴火が発生する可能性があるものと考えられます。
- ・火口から概ね1.5 km以内では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

⑱硫黄島【火口周辺警報（火口周辺危険）】

- ・島西部の旧火口（通称：ミリオンダラーホール）では、2013年4月12日以降、噴火は確認されていません。
- ・地震活動はやや少ない状態で推移しています。火山性微動は時々観測されています。
- ・GNSSによる地殻変動観測では、2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し、2015年3月頃から隆起速度が上がっていましたが、10月以降は2月以前の状態に戻っています。

- ・硫黄島では火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、従来から小規模な噴火が発生した地点およびその周辺では警戒してください。

⑲福岡ノ場【噴火警報（周辺海域警戒）】

- ・長期間にわたり変色水が確認されており、小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では警戒してください。

4. 九州地方・南西諸島

①鶴見岳・伽藍岳【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

②九重山【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・GNSS連続観測によると、2012年頃から一部の基線で伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

③阿蘇山【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】 ←平成27年11月24日に噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ

- ・2015年9月14日に発生した連続的な噴火は、10月23日まで続きました。10月23日に小規模な噴火が2回発生し、噴煙は最高で火口縁上1,600 mまで上がりました。また、火口周辺に大きな噴石が飛散しました。
- ・火山活動の活発時にみられていた火山性微動の振幅の増大は2015年10月23日の噴火以降、概ね小さな状態となりました。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が多い状態が続いていましたが、10月下旬以降は減少しました。
- ・これらのことから、火口から1 kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと判断し、2015年11月24日14時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。
- ・2015年12月7日にごく小規模な噴火が発生しました。
- ・2015年12月25日04時21分頃に空振を伴う振幅のやや大きな火山性微動が発生しました。天候不良のため噴煙等の状況は不明でしたが、2016年1月7日の現地調査で火口南西側に噴石を確認したことから、噴火していたものと考えられます。噴石はこぶし大～半身大の大きさで、最大で火口縁から約100 mまで飛散していました。
- ・2015年12月4日と2016年1月20日に、中岳第一

火口付近のごく浅い所を震源とする振幅の大きな火山性地震が発生し、南阿蘇村中松で震度 1 を観測しました。

- ・孤立型微動は2015年10月下旬以降に減少しましたが、2016年 1 月から増加しています。
- ・火山性微動の振幅は、2016年 1 月31日頃から概ね大きな状態で経過しています。
- ・2015年12月14日及び12月24日に中岳第一火口内に湯だまりを確認しました。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 300～1,900 トンと概ね多い状態で経過しています。
- ・傾斜計では、噴火に伴ってわずかな傾斜変動が観測されましたが、長期的には火山活動に起因すると考えられる特段の変化は認められませんでした。GNSS連続観測では、深部にマグマだまりがあると考えられている草千里を挟む古坊中―長陽（国）の基線で、2015年 8 月頃からわずかな伸びの傾向が認められていましたが、11月頃から停滞しています。
- ・中岳第一火口では、時々小規模な噴火が発生しており、2015年12月25日程度の火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。
- ・火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意してください。

④雲仙岳 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
- ・GNSS連続観測では、山体西側の基線で、2015年 6 月頃からわずかな伸びの傾向がみられていましたが、10月頃から停滞しています。
- ・長期的には2010年頃から火山性地震の活動がやや活発となっていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

⑤霧島山

新燃岳 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

- ・新燃岳では、今期間噴火は発生していません。
- ・白色の噴煙は、最高で火口縁上100mまで上がりましたが、ほとんどは火口内で消散する程度でした。
- ・新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は時々発生し、2015年10月と12月にはやや増加しました。火山性微動は2015年 3 月 1 日に発生して以降、観測されていません。
- ・GNSS観測によると、新燃岳の北西数km（えびの高原付近）の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2015年 1 月

頃から停滞しています。一方、新燃岳周辺の一部の基線では、5 月頃からわずかに伸びの傾向がみられていましたが、10月頃から停滞しています。

- ・干渉SARによる解析では、火口内に蓄積された溶岩のわずかな体積膨張が続いています。
- ・今後も火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性がありますので、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。噴火時には、風下側では火山灰だけではなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には泥流や土石流に注意してください。

御鉢 【噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）】

- ・2015年 7 月頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、12月下旬からは調和型の火山性地震も時々発生しています。
- ・規模の小さな火山灰の噴出現象が発生する可能性がありますので注意してください。

えびの高原（硫黄山）周辺 【噴火予報（活火山であることに留意）】

- ・2015年 7 月頃から継続時間約 2～5 分の火山性微動が時々発生し、それに伴い硫黄山の北西方向が一時的に上がり、約40分から80分間かけて元に戻るような傾斜変動が観測されました。
- ・水準測量によれば、2015年 6 月から12月の間で硫黄山を中心に10mmを超える隆起が観測されました。
- ・干渉SARによる解析では、2015年12月から硫黄山火口付近が局所的に隆起する変動が観測されています。
- ・2015年12月14日に硫黄山火口内の南西側で弱い噴気と硫化水素臭が確認されました。噴気が確認された付近では熱異常域が出現し、その後、熱異常域が次第に拡大しているのを確認しています。2016年 1 月22日には、新たに硫黄山火口外側の南斜面でも噴気と熱異常域が確認され、その熱異常域も次第に拡大しています。新たな熱異常域周辺での火山ガス（硫化水素及び二酸化炭素）の濃度も高まっています。
- ・えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動がやや高まってきていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、硫黄山付近では、火山ガスにも注意してください。

⑥桜島 【火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】 ←平成27年11月25日に噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引下げ、平成28年 2 月 5 日に噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引上げ

- ・南岳山頂火口では、爆発的噴火は発生しませんでした。
- ・昭和火口では、2016年2月5日に爆発的噴火が発生し、噴煙が高さ火口縁上2,200mまで上がり、大きな噴石が3合目（昭和火口より1,300～1,800m）まで飛散しました。爆発的噴火の発生は2015年9月16日以来です。その後も時々噴火が発生しています。
- ・火山性地震及び火山性微動は少ない状況です。
- ・地殻変動観測では、2015年8月15日にみられた急激な山体膨張が停止した後、収縮傾向が続いていますが、徐々に収まっています。
- ・GNSS観測では始良カルデラを挟む基線で伸びの傾向が続いています。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり概ね100トンと少ない状況で経過しています。
- ・2月5日の爆発的噴火以降時々噴火が発生しており、今後も活発な噴火活動が継続すると考えられます。また、始良カルデラの膨張が続いていることから、火山活動の更なる活発化の可能性もあり、引き続き火山活動の推移を注意深く監視していく必要があります。
- ・昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

⑦薩摩硫黄島 【噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）】

- ・火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
- ・硫黄岳火口では、噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性があります。また、火口付近では火山ガスに注意してください。

⑧口永良部島 【噴火警報（噴火警戒レベル5、避難）】

- ・新岳では、2015年6月19日の噴火以降、噴火は観測されていません。火映は2015年5月29日の噴火以降観測されていません。
- ・火山性地震は時々発生しました。火山性微動は観測されていません。
- ・現地調査では、2015年9月以降、新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度の低下が認められていますが、噴煙は最高で火口縁上600m

- まで上がるなど、2014年8月3日の噴火前よりは多い状態が続いています。
- ・地殻変動観測では、2015年5月29日の噴火以降に山体の収縮を示すような変化は認められません。
- ・火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、2015年9月以降、1日あたり100～300トンとやや少ない状態で経過していましたが、2015年9月と12月に、一時的に1日あたり500トンを超えてやや多くなりました。
- ・2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、5月29日の噴火前からの島の隆起した状態が維持されていることから、引き続き噴火の可能性があり、火砕流に警戒が必要です。火砕流の流下による影響が及ぶと予想される屋久島町口永良部島の居住地（前田地区、向江浜地区）では厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。
- ・噴火に伴う大きな噴石の飛散が予想される新岳火口から概ね2kmの範囲及び火砕流の流下による影響が及ぶと予想される新岳火口の西側の概ね2.5kmの範囲では、厳重な警戒（避難等の対応）をしてください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。
- ・新岳火口から半径1.4海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

⑨諏訪之瀬島 【火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）】

- ・御岳火口では、2016年1月6日に爆発的噴火が発生しました。また、噴火も時々発生し、噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上がりました。
- ・十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、時々鳴動が確認され、2015年11月や2016年1月には集落（御岳の南南西約4km）で降灰が確認されました。
- ・火山性地震はやや少ない状態で経過しました。火山性微動は、断続的に発生しました。
- ・諏訪之瀬島では、活発な噴火活動が続いており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。